

週日の説教

金 大烈 神父 2009年2月28日(土)

《イエス様は私の弱さのために来られたのです》

「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。」(ルカ 5・31)健康な体と心を持っている人には、医者は必要ありません。今日の福音(ルカ 5・27 - 32)で私たちが考えなければならないのは、「イエス様は、健康な人ではなく、足りないところが多い人のために来られた」ということです。では、健康な人が、健康でない人が、その基準は何でしょうか。何を見て、「あの人は健康な体、健康な心を持っている」と言えるのでしょうか。何を見て、「あの人は健康な人ではない、心が少し病気にかかっている、きれいな人ではない」と言えるのでしょうか。その基準は何でしょうか？

イエス様は、傷んでいる人々のために来られたと、今日の福音ではっきりおっしゃっています。皆様は、健康な人でしょうか、それとも健康ではない人でしょうか。もし本当に健康な人でも、自分は健康である、と思っははいけません。私たちは、死ぬ時まで、「私は足りない存在です、弱い存在です」と言う心がなければ、なかなか正しい信仰の道を歩むことはできません。私たちは死ぬときまで、神様の前では罪人です。私は人を、私はほかの人にくびきを負わせたこともないし、指をさしたこともないし、呪いの言葉をはいたこともない、と言える人はいますか。実際に。そういう人々は罪人ではありませんか？次に、「飢えている人々に心を配り、苦しめられている人の願いを満たすなら、あなたの光は、闇の中に輝き出で、あなたを包む闇は、真昼のようになる。」

皆様ももし、飢えている人に食べ物をあげたとしましょう。そうしたら、私は罪がないのではないかと。こんなに良いことばかりをしたから。よく考えてください。私たちは本当に何も罪を犯さなかったとしましょう。盗んだこともないし、指差したこともないし、くびきを他の人に与えたこともない、としましょう。そうしたら私たちは罪人になれないのでしょうか。

カトリック信者ならば、どんなに頑張っても罪人です。もっと一生懸命信仰の生活をすればするほど、私たちは罪人です。私は罪人です、という告白が自然に口から出るはずですが。そうではなくて、私は毎日、一生懸命祈ったり、よいことをしたり、神を賛美したり、だから私は聖人のように優しいきれいな心を持っている者です、と言えはその人は間違えて信仰の道を歩んだ結果です。私たちは、あなたの前にはいつも罪人です、という告白がイエス様がいつも私たちに強調して下さった、へりくだる心です、謙遜な心です。この心がなければ仕方なくて私たちはいつも人々を裁こう、指差そうとするその癖から開放されません。

皆様、私たちは人を殺したことはありません。盗んだこともありません。人をいじめたこともないです。しかし、いじめられる人がいる限り、飢えている人がいる限り、しいたげられている人がいる限りは私たちは仕方なくて罪人です。この意識こそがカトリックの精神です。今日の福音、よく考えてみましょう。イエス様は、足りない人、弱い人のために来られたから、私とは関係ないのではないかと、と絶対思わないでください。私の弱さのために来られた方がイエス様であることを意識しましょう。これが福音です。

ありがとうございました。